

## 図們江輸送回廊・琿春フォーラム

ERINA調査研究部研究員 川村和美

2003年10月21日、22日の2日間、中国吉林省琿春市にて、琿春市、UNDP、日本貿易振興機構（JETRO）、ERINAの主催、国際港湾交流協会の協賛により図們江輸送回廊・琿春フォーラムが開催された。

このフォーラムは、「図們江輸送回廊の活性化と日本海横断航路の開設に向けて」をテーマに、同回廊の人とモノの流れの活発化はもちろん、北東アジア諸国間の相互理解・相互交流の促進、関係者間のコミュニケーションの活性化を目指し、図們江地域と日本とを結ぶ航路開設の可能性を探ることを目的に開催された。

ここで図們江輸送回廊を取り上げたのは、北東アジアのすべての国が関連し、共同で取り組むことができるテーマであるからである。この回廊をめぐる国際貿易が活性化されれば、北東アジア各国はその恩恵を享受することができる。しかしながらこの回廊は多くの国や関係者が関わっているために、それらの利害が交錯し、大きな進展がないのが現状であり、回廊が順調に動き出すまでは大変な労力と時間を要するものと考えられる。こうした状況においては、多くの国、関係者の協調体制を確実なものにすることが重要である。今回のフォーラムはその協調体制の確保も一つの目的として開催されたものである。

このフォーラムには、日本、中国、ロシア、韓国から、政府関係者、民間企業（陸上・海上輸送業者等）研究者、国際機関など31の団体、100名ほどが参加し、当初見込んでいた50名をはるかに超える規模となった。北東アジア各国のこのテーマに対する関心の高さが窺える結果であった。しかしながら、参加予定であったモンゴルインフラ省、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の羅先地区代表が、当日、都合により欠席となったことは非常に残念であった。

フォーラムは5つのセッションから構成され、各セッションで、具体的な提案がなされ、そして本音が聞かれたことは大きな成果であった。

第1セッションは、「図們江回廊の意義、役割、効果」をテーマに、UNDP図們江地域開発事務局副代表のツォグツァイハン氏がコーディネーターを務め、議論が進められた。

ここでは、笹川平和財団主任研究員の李燦雨氏が図們江輸送回廊の意義と役割、効果について、国際問題研究所アジア太平洋研究センター研究員の渡辺松男氏が北東アジア開発の展望を報告した。李氏は輸送回廊実現の効果を、北東アジア周辺地域の経済発展の促進、ゲートウェイとして輸送競争力が高まることによる、合作区、中口自由市場、輸出加工区への企業進出の促進、貿易面での競争による国際化、国際協力の進展とまとめた。渡辺氏は、世界的な地域間協力の流れを紹介し、アジアにおいても地域間協力に向けた整備が進んでおり、北東アジアは今後競合しながら、経済圏を確立していくための環境が整いつつあることを強調した。

こうした基調報告を受け、輸送回廊が地域発展に大きな役割を果たすことができるという共通認識を確認した後、ロシア・ハサン地区行政副長官のプロバノフ氏は、この地域の経済発展の制約となっているのは海上航路の不足であるとし、海上航路の充実を求めた。また、現在、ハサン地区クラスキノと琿春市との間で実施している中口互市貿易区を多国間に拡大し、多国間の協力により回廊の活性化・利用の加速を図ってはどうかと述べた。そして、その際に、関係者間の意見調整をするための組織作りが必要であることを訴えた。

第2セッションは「回廊に関わるプロジェクト」をテーマに吉田進ERINA理事長がコーディネーターを務めた。

ここでは、前在モンゴル日本国特命全権大使の花田磨久氏より、国際自由市場プロジェクト（EGB：Eurasian Gate Bazaar）、遺棄化学兵器処理プロジェクト（ACW：Abandoned Chemical Weapon Destruction Project）が提案された。EGBプロジェクトは、図們江地域に北東アジア6カ国が一堂に会する国際自由市場を設置することで地域内交流を促進し、人と物の流れの活性化を目指すものである。また、ACWプロジェクトは延辺朝鮮族自治州敦化市の遺棄化学兵器の処理を行うもので、5,000億円プロジェクトとも言われ、大規模な物流の発生が見込まれている。日本海沿岸地域と図們江地域を結ぶ国際フェリー航路が開設されれば、この処理に関連するさまざまな物資を距離的に近い同航路を利用して輸送する可能性は十分にある。これら2つのプロジェクトを積極的に活用し、輸送回廊の活性化、図們江地域を中心とする北東アジア地域の発展の促進を目指すことが提案された。

吉林省図們江地区開発弁公室主任の方敏氏からは、琿春～マハリノ間鉄道について、建設開始から10年以上が経過し、吉林省はクラスキノ税関の建設に協力するなどの努力をしてきたが、いまだに開通に至っていないことに触れ、

一日も早い開通の実現を希望していることを強く訴えた。さらに、会議における議論と各国政府部門とを結びつけ、実際の動きを促す努力が必要であると述べた。

また、琿春市市長の金昌俊市からは、このルートを利用した吉林省の羊草（牧草）の対日輸出プロジェクトの実現により、物の流れを生み出すことができるとし、日本側の協力を求めた。また、EGB、ACWプロジェクトについては非常に興味を持っており実現に向けて琿春市としても努力したいと強調した。

第3セッションでは、「海上航路・港湾」をテーマに極東海運研究所所長のセメニヒン氏がコーディネーターを務めて、意見交換が行われた。ここでは、ザルピノ港のポーゼンコフ氏及びトランスグループ代表のコリシュキン氏が、中国貨物の取扱に関する同港の利用条件を述べた。それによれば港湾は国家財産であり、買い取ることはできないが、リースは可能であるとのことで、さまざまな形態でのロシア側企業との協力の可能性、港湾利用の方法が示唆された。

一方、日本側からは商船三井経営企画部部長代理の松本厳雄氏が、同社は北東アジアに興味を持っているとした上で、新航路開設のケースには、十分に貨物があり、港湾が完備されている場合と、貨物量は少なくとも将来性があり、大胆に決断する場合があると述べた。図們江地域と日本とを結ぶ航路についてはこのケースであるが、航路開設の可能性（潜在力）は十分であると述べた。

第4セッションは「回廊通行の課題」をテーマに、吉林大学副学長の王勝今氏のコーディネーターのもと、議論が進められた。ここでは、境港貿易振興会参与の長谷川欣吾氏が定期航路のためには貨物、そしてそれを生み出すビジネスが必要で、そのビジネスを作り出すことが求められることを強調したほか、長春海関監督管理处副処長の王洋氏が、ビジネスを生み出すためには各地の優遇政策を利用することが望ましいと述べた。

また、吉林省図們江開発弁公室副主任の崔軍氏からは中口、中朝間の税関手続きに関する問題、通過に関する税関の取扱い能力が低いこと、貿易決済上の問題が残されているとし、今後の発展のためには、琿春・ハサン・羅先の役割を明確にし、それを分担し責任を持つことが輸送回廊の促進につながると提案した。さらに今後の発展のプロセスとしては、中口間で国境を跨ぐ自由貿易区を作り、中口朝地域に跨る経済合作区を設置し、大きな自由貿易区を設置するという段階が必要であると述べた。

長春海関監督管理处副処長の王洋氏は、図們江輸送ルートはコストを低くすることで発展するとし、その意味では

税関の役割も非常に大きいと述べた。そして、周辺国家の通関政策が不透明かつ違いが大きければ、不都合が生ずる。長春税関としては北東アジア経済交流という立場においてロシア、北朝鮮との交流を盛んにし、輸送回廊の実現、コストの安いルートの構築に努力したいと強調した。

コーディネーターを務めた王勝今氏は、インフラ整備のアンバランス、国境における通関システムの非効率、羅先地域のインフラ整備の必要性と資金不足の問題点などがこの地域の輸送面での課題であるとまとめた。さらに、中国東北地域は再工業化の時期に来ており、中央政府が打ち出した東北振興政策は図們江開発の新しいチャンスとなりうると強調した。

第5セッションは、「回廊の活性化に向けての提言」をテーマに意見交換が行われた。ここでは、各セッションコーディネーターが各セッションの議論をまとめた上で意見交換を行った。そしてコーディネーターを務めた日本港湾協会理事長・ERINA顧問の栢原英郎氏がさまざまな意見を受け、この地域の輸送問題においては、実現可能な具体的なプロジェクト、アイデアが求められているが、今回のフォーラムはその要望に応えられたと思うとし、琿春宣言をまとめるに当たってのキーワードを以下の通りまとめた。それは、具体的且つ継続的な努力（この重要性と必要性が強調された）、共同と協力（この重要性と必要性が主張された）、提案された具体的課題：琿春～マハリノ間鉄道の接続、国際的ルール作りの必要性、日本海横断航路の充実、国際的組織の必要性である。そして、図們江輸送回廊活性化に向けた牽引的事業としては、ACW事業とEGB事業があるとまとめた。

こうした5つのセッションにおける議論を経て、琿春宣言がまとめられた。宣言文には、各セッションコーディネーターをはじめ、参加者の意見が反映されている。最終的に採択された宣言文に至るまで、数度にわたって参加者の意見に基づいた内容の追加が行われたことは非常に興味深い。これは、参加者のこのフォーラム、そしてこのテーマに対する真剣さの現われと言えよう。

関係者が図們江輸送回廊の現地、琿春に集まり、本音で、具体的な議論ができたことの成果は大きく、輸送問題といった共通のテーマを軸に、各国間の交流・協調体制が強化されつつあると感じられた。

参加者は、今回提案された具体的プロジェクトの実現に向け、努力を継続していくことを約束した。ERINAとしても積極的に活動していきたいと考えている。この図們江輸送回廊の第2回フォーラムは2004年2月4日に新潟市にて開催される予定である。

## 図們江輸送回廊・琿春フォーラム 琿春宣言

(2003年10月22日 琿春市)

2003年10月21日・22日、北東アジア地域の交流と発展の原動力となり得る図們江輸送回廊の活性化を目指し、国連、日本、中国、韓国、ロシアから専門家、研究者、企業家、政府関係者など31の団体が琿春の地集った。

今年に入って北東アジアでは大きな変化が見られる。中国の温家宝総理はASEAN会議で中国東北地方の振興は北東アジア諸国との協力不可分であると発言した。韓国の盧武鉉大統領は「北東アジア中心国家」を提唱している。ロシアは9月にヨーロッパ・アジア太平洋会議を開き、ウラジオストクを中心とする沿海地方の港湾をアジア諸国に対するゲートであると宣言した。日本でも北東アジアの多面的協力拡大を目指す動きが大きくなっている。

こうした状況の中で今回のフォーラムが開催された。

2日間の議論を通じ、参加者は、図們江輸送回廊は北東アジア各国が関わる重要な回廊であり、これが国際輸送回廊として確立すれば、中国、ロシア、モンゴル、北朝鮮のみならず韓国、日本も大きな利益を得られ、この結果、北東アジア地域が大きく発展する可能性があることを確認した。

また、この回廊を利用する人とモノの流れを生み出すプロジェクトは、多数存在することが明確となった。

図們江輸送回廊が重要輸送路として十分に機能するためには、1) 琿春～マハリノ間鉄道輸送の正常化、2) 陸上輸送において国境を越える輸送に関する国際的なルール作り、3) この回廊が日本・韓国、さらに世界各国と結ばれるための海上航路の充実、4) この回廊がより順調に運行するための国際機関を作ることが必要である。この実現のためには関係者間の情報交換と共同作業及びこれらを通じた信頼関係の構築が何よりも重要であり、それに向けて議論から実践へ、小さなプロジェクトから大プロジェクトへの転換が求められている。そのけん引役の先導事業としては、EGB (Eurasian Gate Bazaar : 国際自由市場)、ACW (Abandoned Chemical Weapon Destruction Project : 遺棄化学兵器処理事業)の両事業が検討されるべきであると主張された。そして、これらの事業には、北東アジアのすべての国が共同で取り組む必要があることが強く訴えられた。

このフォーラムを通じて、参加者は多くの新鮮な情報を得、隣人たちの考え方に触発を受け、本フォーラムの成果を確認し、今後のさらなる協力を約束した。私たちは、この回廊の活性化に向け、また北東アジア地域の交流と発展に向け、引き続き、共同作業等の協力をを行い、努力を惜しまないことをここに宣言する。